

令和 4 年度第 2 回三重大学医学部附属病院監査委員会議事概要

日 時 令和 5 年 3 月 13 日 (月) 14 : 00 ~ 16 : 00

場 所 三重大学医学部附属病院外来棟 4 階 カンファレンス室 3

出席者

○委 員

鈴木 明 (委員長)、奥野 正義、小池 敦、片山 眞洋

○三重大学附属病院出席者

池田病院長、兼児副病院長 (医療安全管理責任者)、江藤看護部長

薬 剤 部 : 岩本薬剤部長 (医薬品安全管理責任者)、向原副薬剤部長

臨 床 工 学 部 : 山田技士長 (医療機器安全管理責任者)

中央放射線部 : 佐久間中央放射線部長 (医療放射線安全管理責任者)、山田技師長

医療安全管理部 : 飯澤医師、達村看護師長、市川副看護師長、岩本看護師、佐々木薬剤師、上林薬剤師

感 染 制 御 部 : 田辺感染制御部長

○三重大学陪席者

(本部側) 服部監事 (業務監査担当)、監査チーム 3 名

(病院側) 伊藤医学・病院管理部長、粟生総務課長、柘植医療支援課長、その他事務担当者

〔配付資料〕

- ・リスクマネジメントマニュアルの改訂について
- ・ヒヤリハットニュースの発行状況について
- ・日本医療機能評価機構への報告事案について
- ・病院機能評価の取り組み状況について
- ・令和 4 年度職員研修会の実施状況について
- ・事前の質問事項に対する回答について

事 項

1. 三重大学医学部附属病院における医療安全管理体制について

(1) リスクマネジメントマニュアルの改訂について

兼児副病院長より、資料に基づき、次の改訂箇所の説明があった。

- ・第 2 章. 医療安全の基礎知識 2.6 急変時の対応 2.6.2 Stroke (脳卒中) コールについて、Stroke (脳卒中) コールの連絡先を「5555 (24 時間対応)」に変更した。
- ・第 3 章. 患者の権利と臨床倫理 3.5 患者支援体制 3.5.2 その他の虐待 (高齢者虐待、障害者虐待など) について、三重大学のポリシーに則り「障がい」を「障害」に統一し、「家庭内暴力・虐待等により受傷された患者、その疑い

のある患者が受診した場合の対応手順」を刷新した。

- ・第9章. 医薬品の安全管理 9.1.1 麻薬製剤 麻薬製剤の保管について、麻薬製剤は、医療者2名で1日に1回以上、与薬指示簿と残薬量とを照合する旨を追記した。
- ・第9章. 医薬品の安全管理 9.1.6 インスリン製剤 低血糖時の対処方法について、低血糖時の対処方法のフローチャートを修正した。
- ・第9章. 医薬品の安全管理 9.1.10 院内希釈濃度統一医薬品について、15歳以上の患者に対するレミフェンタニル静注液の処方を統一した。
- ・第13章. 周術期の安全管理 13.7 WHO手術安全チェックリスト 13.7.3 閉胸・閉腹前サインアウトについて、新たに確認項目を設け、麻酔担当医、手術室看護師、診療科医師で実施する内容を明記した。併せてWHO手術安全チェックリストも改訂した。
- ・第13章. 周術期の安全管理 13.12 手術室・アンギオ室における麻酔管理について、当院では原則として「並列麻酔」を禁止しており、遵守状況を確認するために、全身麻酔手術の全例に対し「導入」、「維持」、「覚醒」のタイミングでの麻酔指導医、麻酔標榜医、特定看護師の対応状況を確認・報告することを明記した。

(2) ヒヤリハットニュースの発行状況について

達村看護師長より、資料に基づき、ヒヤリハットニュースの発行状況及びリスクマネージメントマニュアルの改訂箇所の説明等があった。

(3) 日本医療機能評価機構への報告事案について

兼児副病院長より、資料に基づき、日本医療機能評価機構への報告事案について説明があった。

次いで、佐々木薬剤師より、報告事案の詳細等について説明があり、発生日から報告まで2週間以内に報告が必要と医療法施行規則（第12条）により定められているが、いくつかの事案については例外的に2週間を過ぎていることについて説明があった。

また、兼児副病院長より、日本医療機能評価機構への報告について、本院の報告は精度が高いと評価されている旨、補足があった。

小池委員より、ヒヤリハットニュースについて、このような形で周知に努めていることは大変重要であり、また一時的なものではなく、重要な案件については再周知を行っているなどの点についても評価できる。一方でヒヤリハットニュースとリスクマネージメントマニュアルとのリンクについて、ニュースの中にマニュアルの〇〇ページに本件の記載があると分かるような表記をすることにより、医療安全の柱となるマニュアルに立ち返ることができ、もっとマニュアルを活用できるのではないかとの意見があった。

兼児副病院長より、ヒヤリハットニュースとリスクマネージメントマニュアルとのリンクについて、早速、次回発行のニュースから〇〇ページ参照といったような記載をするとの回答があった。

また日本医療機能評価機構への報告について、事案については第三者も交えた委

員会等でも議論しており、厚労省からも 1 件や 2 件ではなく、一定数報告があることについてむしろ健全であると評価されているとの回答があった。

片山委員より日本医療機能評価機構への報告事案について、インシデントレベル 3b 以上の事案については全て報告するのではなく事案によって判断しているのか、また報告書について、発生日から報告まで 2 週間以内に報告なされていない事案について、その旨記載がないがどのような理由であるかとの質問があり、兼児病院院長より、インシデントレベル 3b 以上の報告については、全て病院長も出席されている医療安全管理委員会へ報告し、委員会の中で報告事案を判断している。また報告について、望ましいのは 2 週間以内であるが、あくまでも原則として運用されており、たとえ過ぎたとしてもその旨記載することは日本医療機能評価機構からも求められていない旨の回答があった。

2. 病院機能評価の取り組み状況について

兼児副病院長より、資料に基づき、病院機能評価の概要、受審状況等について説明があり、認定が取得できた旨の報告があった。

小池委員より認定が留保となり、留保のままとなっている病院はあるのかとの質問があり、兼児副病院長より、留保となっている病院は少なくないが、特定機能病院の要件にも第三者機関の評価を受けていることが求められており、どの病院においてもしっかりと取り組んでいる旨の回答があった。

3. 令和 4 年度職員研修会の実施状況について

兼児副病院長より、資料に基づき、令和 4 年度職員研修会の実施状況について説明があった。

病院機能向上・教育委員会が主催となり計画的に実施しており、年度初め・入職時の職員研修会・合同研修会、医療法で定められている医療安全研修会・感染対策研修会などが行われており、防災関連の研修や、コンプライアンス研修についても行っている。

また、ここ数年はほとんど E ラーニングで開催しており、受講率は 100%となっている。

鈴木委員長より、E ラーニングは自宅からでも受講可能かとの質問があり、佐久間中央放射線部長（病院機能向上・教育委員長）より、外部からのアクセス権のある職員については受講可能である旨、説明があった。

次いで小池委員より、勤務時間内に研修を受講するのか、自宅等で勤務時間外に受講するのか労働状況の管理体制について質問があり、江藤看護部長より、看護部所属職員については、自宅での受講については難しいが、勤務中の受講についても当然認めており、勤務終了後に受講する場合にも業務の一環として、超過勤務手当を支給している旨の説明があった。

4. 事前の質問事項に対する回答について

事前に各委員に医療安全管理体制に関する質問事項を照会していたが、特段質問事項はなく、本日の議題の再確認を行った。

5. 医療安全に係る取組み状況の院内ラウンド

栄養診療部（グルメディカールスタジオ・厨房）の巡視を行い、施設確認、使用用途や入院患者の給食の配膳やアレルギー管理など栄養診療部の取組み状況を確認した。

●講評について、本日の内容を踏まえて各委員より意見を述べた。

奥野委員より、ヒヤリハットニュースの発行状況について、ニュースの発信だけでなく、病棟に出向いて現状や改善点の確認等を行っていることは大変評価できるとの意見があった。

小池委員より、厨房等の院内ラウンドについて、病院は治療行為を行うだけでなく、入院中の食事也非常に重要であり、またそれらが医療安全の中にしっかりと組み込まれていることが確認できた。またグルメディカールスタジオについては、中々珍しい施設であり、特色ある施設でもあるので、地域との連携も含めて、更なる発展を期待しているとの意見があった。

片山委員より、日本医療機能評価機構への報告事案について、三重大学医学部附属病院の評価が高いという点については、クローズではなくオープンにしておき、議論ができる状況となっているからであり、これからも継続していただきたい。また、報告書について、発生から2週間以内に報告を行うと条文に定められている以上、実務上そぐわないのかもしれないが、期限内に報告を行うか、難しいのであれば管理の面から考えると報告書に2週間を過ぎたことについて、一言記載があってもいいのではないかとこの意見があった。

鈴木委員長より、リスクマネジメントマニュアル及びヒヤリハットニュースにて説明のあったストロークコールについて、中々活用される機会が少なかったことから、電話番号を分かりやすい番号への変更や、スタッフへの教育として、研修会の開催やニュースの発行など具体的に対策を行ったことについて大変評価できる。また、迷った際に躊躇することなく電話できる職場の雰囲気や環境を整えていることが大切であり、実際にコールされ、早期に患者さんを救うことができたことは評価できる。一方で、コールされたが脳卒中ではなかった事例についても、違っていいので今後も躊躇することなくコールできる雰囲気づくりを継続していただきたいとの意見があった。

以 上